

2011年度開講科目

## 調査実習概要報告書

\*/\*

2012年4月16日

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	ながまつ なみえ 長松 奈美江		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	わたなべ つとむ 渡邊 勉	関西学院大学 社会学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I	KSGa-110702-0	27	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生は、調査の企画、仮説の構築、調査票の作成、サンプリング、調査の実施、データ入力、データ整備、分析、レポート執筆という、社会調査の実施に関わる全過程に参加した。特に、調査の実施とレポート執筆には、多くの時間と労力を割いた。社会調査データを収集する困難さを知ったとともに、今後、調査を実施していくうえでの基本的な知識と技術を身につけたと考えられる。

## II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：大学生のアルバイト、就労意識、学生生活、就職活動

2. 調査の内容/概要：大学生のアルバイトの実態と就労意識、学生生活、家庭生活について調査を行い、「働く」という視点から、大学生の生活を捉えた。

3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：母集団は関西学院大学文学部、社会学部、経済学部、法学部の1年生から4年生の男女個人。サンプリング方法は、1、2年生は英語のクラスを、3、4年生は所属ゼミナールをランダムに抽出するクラスター・サンプリング。

4. 主な調査項目：家族との関係、単位取得状況、学習態度、アルバイトの実態、将来の仕事に関する意識、関西学院大学に対する考え、など。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：授業を通じて調査票を配布、自記式で回答ののち、ポストへ投函

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査期間は2011年7月、調査地は関西学院大学上ヶ原キャンパス、調査員は45名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：。アタック数が1461人、有効回収数（回収率）が364人（24.9%）。調査項目が多かったり、授業外での回答を求めたため、回収率は低かったが、回収した票に関しては、多くの項目で欠損値が少なく、良質なデータが収集できたと評価している。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：記述統計、クロス表分析、分散分析、重回帰分析

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：アルバイトの時間が長いほど、授業の欠席頻度が高いなど、アルバイトの実態と大学生の学習態度が関連をもつことが示された。また、学生のアルバイトに関しても、男女で賃金の差があることが明らかになった。さらに、女性ほど、アルバイトで感情労働を求められることがわかった。将来の意識に関しても、地元志向が強いほど公務員で働くことを望む、ということも明らかになった。

10. 報告書刊行の予定と概要：なし

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。